

課題は、あなたの中にある

宗像さんは、4月から週1日継続して保原小で活動をしています。鈴木さんは、1学期最後の週に保原小で活動を始めました。2人は夏休み明けの8月25日から再開予定ですが、今から子どもたちに会えるのを楽しんでいます。

薄さんは、福島三小6年生の尾瀬体験学習の引率支援に行ってきました。2泊3日、子どもたちと尾瀬の自然と魚つかみなどの体験活動を満喫してきました。3人は、活動しカンファレンスをとおして実感しながら「教師」を学んでいます。



5年生の家庭科裁縫の実習支援をしました。



2人は、活動日が同じ曜日に重なりました。担当の先生からこの日の活動メニューの説明を受けまし

3年 宗像 梨奈

今までの活動の中での気付きは大きく2点あります。一つ目は、これまで私は、子どもたちを「きちんと褒めること」ができていたかということです。

ある日、いつもよりも授業への取り組みが真剣だったA君へ声をかけました。しかし、本人は褒められているということをつかっていない様子でした。私は褒めることを意識してきましたが、それが子どもたちに届いていないことがあることを感じました。子どもたちはどこを褒められたら嬉しいのかを探り、心に届く言葉をかけられるようになればと思っています。

2つ目は、子どもたちの「？」の解決に貢献できているのかということです。算数の授業中、B君が友達の考えに対して、何回も「分からない」と言っていた時がありました。どこが分からないのかを聞いて、説明してみたものの、どこに「分からない」要素があったのかがよく分からず、その子は腑に落ちていないようでした。子どもたちの知りたいという気持ちは、大切にしたいと思っています。子どもの本当に知りたいことに迫るようにしていきたいです。

これからの活動では、これまでの気付きを活かして、子どもたちとより良い関係を築いていけたらと思っています。

宗像さんはほめ方と分からない子への支援の仕方、鈴木さんは自分の課題探し、薄さんは教師の臨機応変な対応を学んでいます。自分の気付きを課題にして、カンファレンスをとおして自分のペースで探究しています。

3年 鈴木 晴香

私は6月に教育実習に行き、もっと小学校の現場を知りたいと思うようになりました。それが、学校ボランティアを始めたきっかけです。学校の先生方はとても丁寧にご指導して下さい、これからの学校ボランティアも頑張りたいと思えました。

保原小学校は、震災以降に今の新校舎に移ったそうです。今回私は、震災で散り散りになった子どもたちが集団として互いに協力して学校生活を送ることができるようにと始まった『学び合い』教育を見せていただくことができました。教室の中では、子どもたちが自主性を持って学びだすような先生方の工夫をたくさん見つけることができました。掲示物や先生の発問、子どもの言動への価値づけなどとても勉強になりました。つい、自分の思った通りにいかないと子どもの言動に口を出してしまいたくなりますが、子どもが互いにいきいきと学びあう姿を見て、先生方はどのような思いで子どもたちを育てていこうとするのか考えることができました。

今回初めて訪れた保原小学校でしたが、これ



尾瀬体験学習引率支援



子どもたちに、講話もしました。



【問合せ先】 学校ボランティア支援室は、疑問、困りごと、要望、相談に応じます。
(理工107 e-mail: 齋藤幸男 ysaito@educ.fukushima-u.ac.jp
二瓶洋允 hnihei@educ.fukushima-u.ac.jp)

【相談時間】 月～金 (9:00～16:30)

【体験訪問】 水曜日は、保原小学校で全校『学び合い』を体験できます。